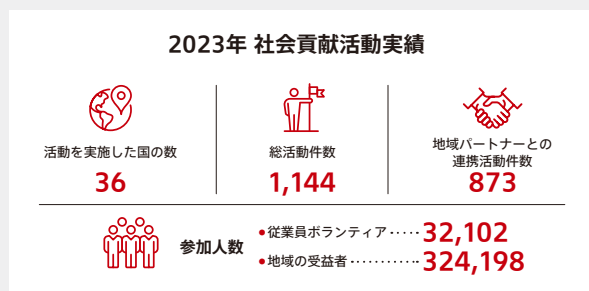


地域との共生

ブリヂストンは社会価値・顧客価値の持続的な創出や共創の基盤に資するものとして、地域共生の取り組みを通じた社会との信頼の醸成にグローバル各地域で取り組んでいます。2023年に当社は「Business for Societal Impact」(B4SI)の会員となり、B4SIが「企業のコミュニティ投資」のフレームワークで示す「特定の活動の結果として個人、組織、企業におこる短期的または長期的変化」である社会的インパクトの可視化と開示に向けた検討に着手しました。私たちは、インパクトの拡大と地域社会との信頼醸成に繋がる取り組みにおいて具体的な成果を示すことを目指しています。また、地域社会の目的に応じた社会貢献活動と「Bridgestone E8 Commitment」における8つの価値創造を通じ、より安全で健やかな地域づくりと、インクルーシブで開かれた教育を次世代にまで提供することを目指しています。

2023年は、ブリヂストン全体で、36か国で1,144件^{*1}の社会貢献活動(うち873件は外部パートナーと連携^{*2}、32,102人の従業員ボランティアが参加^{*3})を324,198人の地域の方々に対して実施^{*4}しました。



*1 活動数の集計方法は国や地域によって異なります。
 *2 外部パートナーとの連携集計方法は国や地域によって異なります。
 *3 従業員ボランティア数は延べ人数であり、一部活動では推計値を含みます。
 *4 活動による直接裨益人数を集計し、集計方法は国や地域によって異なり、確認できた活動のみを対象としています。

ブリヂストンは、世界中のリーディングカンパニーが参加するB4SIのフレームワークと基準に合わせて戦略的に取り組み、グループ全体で優れた活動を進めていると思います。私たちは、優れた社会的インパクトの創出を目指すブリヂストンの、B4SIへの理解とコミットメントに裏打ちされた積極的な活動



を高く評価しています。また、持続可能な未来の創出に向けた共通の取り組みを推進することを目指して、世界中のリーディングカンパニーとのネットワークによる他社との継続的かつ積極的な交流を期待しています。

Clodagh Connolly
Global B4SI Director

交通安全に関する取り組み

2021年の世界の交通事故死亡者数は推定119万人にも上ります^{*1}。ブリヂストンはタイヤメーカーとして、交通安全が依然として世界中の人々に関わる課題であること、そしてモビリティシステムの設計にも、安心・安全な地域社会を創るためにも欠くことのできない要素であることを認識しており、交通安全への取り組みは、自社の強みを活かして貢献できる活動であると考えています。ブリヂストンは、グローバルで相乗効果を生み出すためのプログラムの一つとして、2023年にブリヂストン交通安全プログラム(BRSP)を設立しました。交通安全分野の国際NPOである Global Road Safety Partnership(GRSP)と連携して、BRSPの推進のための社内向けガイドであるプレイブックの作成や、活動を通じた地域コミュニティへのインパクトを効果的に評価する方法についての議論を進めています。

また、GRSPとアジア開発銀行がフィリピンで共催した Asia Pacific Regional Road Safety Seminarにも参加し、主要なステークホルダーとともにさらなる交通安全の推進について討論を行いました。このイベントでは、ブリヂストンの交通安全活動の進展やパートナーシップ、ケーススタディなどを紹介しました。

2023年は、34か国で105件^{*2}の交通安全に関する取り組み(うち67件は外部パートナーと連携^{*3}、2,195人の従業員ボランティアが参加^{*4})を103,428人の地域の方々に対して実施^{*5}しました。このうち、5か国における、5つの活動でインパクトの可視化に取り組みました。

*1 出典:世界保健機関「Global Status Report in Road Safety 2023」
 *2 活動数の集計方法は国や地域によって異なります。
 *3 外部パートナーとの連携集計方法は国や地域によって異なります。
 *4 従業員ボランティア数は延べ人数であり、一部活動では推計値を含みます。
 *5 活動による直接裨益人数を集計し、集計方法は国や地域によって異なり、確認できた活動のみを対象としています。

● 2023年の交通安全活動実施国 (34か国)



■ 子どもたちの交通安全意識向上に向けた

「Bridgestone Global Road Safety Program」(タイ)
タイ・ブリヂストン・カンパニー・リミテッドは、AIP Foundation*の協力のもと、生徒や教員の交通安全に関する知識の向上と行動の改善、ブリヂストン交通安全ユース チャンピオンの育成、スクールゾーンの安全調査の実施、インフラ整備の促進、ブリヂストン従業員による交通安全の呼びかけ等の取り組みを通じて交通安全ソリューションを提供しています。

このプログラムは2021年から始まり、タイ国内へ拡大しています。

* アジアとアフリカの脆弱なコミュニティを中心に交通安全の改善を目的とした活動をするNPO

実績

4つの学校に通う生徒と教員242名、保護者と地域の人々1万977名がプログラムに参加、交通安全ユース チャンピオンとして16名が活動、SNSを利用した2,000件のアウトリーチ

インパクト 2022年～2023年

- iRAPのStar Rating*が2から3へ改善
- 地域通学路の安全性を示す、道路利用者のリスクマネジメントスコアが13.31から19.88に改善

* 国際道路評価プログラム(iRAP)は、世界中の危険性の高い道路をなくして人命を救うことに尽力する登録慈善団体です。iRAPが開発したStar Ratingは、安全性のレベルを客観的に評価するものです。

■ 安全啓発活動

「Think Before You Drive」(中南米)

BSAMでは、2005年に啓発活動「Think Before You Drive」をスタートさせました。2022年には、6～12歳の子どもを対象にしたプログラム「Think Before You Drive - Kids」を開始し、ビデオ、ゲームなどのオンラインリソースを通じた交通安全のヒントを提供して安全行動への意識啓発を促しています。

実績

- 2015年以降、7万4,000人の学生やその家族がメキシコ、コスタリカ、コロンビア、エクアドルでのプログラムに参加
- 2022年と2023年には、7校に通う3,000人以上の生徒が「Think Before You Drive - Kids」を通して学習

インパクト

- 参加した従業員の100%が、子どもたちに提供した交通安全教育レベルに自信があると回答

■ 自転車交通安全啓発活動(日本)

ブリヂストンサイクル株式会社は、2017年より、地方自治体や警察と連携の上、自転車交通安全講習を日本全国で実施しています。未就学児から高齢者まで、各ライフステージに合わせてアレンジした講習を通じて、安全な自転車利用の啓発を行っています。

久留米市の小学校では、自転車の交通ルールやヘルメットの正しい着用方法について交通安全授業を行いました。

実績

- 75回開催し、4,000人以上が参加(2023年)

インパクト

- インパクト評価を実施した小学校で行われた自転車交通安全講習では、教員全員が生徒の安全に対する意識が上がったと回答
- 60%の教員が生徒の行動変化について肯定的な回答

■ 「Project Sarthi」(インド)

ブリヂストン インディア プライベート リミテッド(BSID)は、インド各州の最新式ドライバー講習施設と提携し、ドライバー不足や正式な講習機会の欠如といったトラック運送業界が抱える課題に対応しています。

「Project Sarthi」(「Sarthi」はヒンディー語で「運転する人」と称した取り組みにおいて、BSIDは30日間の寄宿運転講習を無料で実施し、専門的な運転技能だけでなく、路上における安心・安全で責任ある行動のためのソフトスキルの育成にも力を注いでいます。また、BSIDの従業員ボランティアは、タイヤのメンテナンス、交通安全、金融リテラシーなどに関する講習も行っています。このプログラムでは、大型車両(HMV)ドライバーの技能を伸ばし、経済社会の中で弱い立場にある失業状態の若者に雇用機会を創り出すことを目的としています。

実績

- 職業ドライバー1,775名の技能等級昇格と認定
- HMVドライバー864名の短期リフレッシュ講習修了

インパクト

- 受講者の66%が自動車関連会社に就職
- 受講修了者の92%が自身の職業としてHMVドライバーを続けたいと回答



■ Green Campsによる若者向け

「Sicurezza」教育(イタリア)

イタリアで実施している多面的プログラム「Sicurezza on the road」(道路の安全)では、若者の交通安全課題に取り組んでいます。8歳から17歳を対象にしたCRI(イタリア赤十字社) Green Campsによる丸1日の教育ワークショップを実施し、従業員ボランティアも参加し、交通安全と持続可能性について話し合いました。参加者からは自分が将来運転する際には、車両の制御、車の状態、タイヤのメンテナンスを第一に考えたといった声が上がりました。また、若者に人気のインフルエンサーを地域の交通安全大使として擁立し、活動をさらに盛り上げました。このCRIと従業員ボランティアの協業によるプログラムは2024年も継続されています。

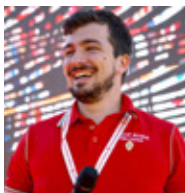
実績

-8カ所240名の「未来のドライバー」への教育活動を実施
-5,000名を超える中等学生が交通安全について学習

インパクト

-ブリヂストン従業員の誇りとCRIとの信頼関係を醸成

ブリヂストンとパートナーシップを結んだことで、これからますますたくさんの人たちの心を動かせるようになります。ブリヂストンの技術支援を受けて作成した交通安全ツールキットは、交通安全の教育方法についてボランティアの知識を広げるのに役立っていくと思います。このパートナーシップのおかげで、交通安全に関する課題にいつでも対処できる体制が整いました。



Edoardo Italia
VP Italian Red Cross and Italian
Representative of the Red Cross's
Young Volunteers

その他の取り組み

ブリヂストンはそれぞれの地域社会の課題や要望に応じた様々な社会貢献活動を通して「Bridgestone E8 Commitment」における8つの価値を創出しています。

例えば、人々の生活の質の向上と職能の開発につながる教育を重視しており、事業を展開する地域においてインクルーシ

ブで開かれた教育を支援しています。初等教育や技術・職業訓練に重点を置き、タイヤの製造・販売で培った強みを活かし、次世代の自動車整備のプロフェッショナルを育成するための様々な研修プログラムなどを提供しています。

また、世界保健機関(WHO)の提言にもあるように、各国や地域のニーズに沿った健康課題解決への貢献が重要と認識しており、地域住民の健康状態を改善し、より健康的なライフスタイルを持続的な文化として根付かせることに取り組んでいます。

加えて、自然災害により被災された地域の方々への支援を社会的責任として捉え、被災状況や被災地のニーズに応じて、様々な復興支援を行うとともに、被災された方々や地域の日も早い復興を心より願っています。

詳細は [Web サイト](#) をご参照ください。

コミュニティ

<https://www.bridgestone.co.jp/csr/social/community/>

従業員へのインパクト

ブリヂストンでは、従業員が社会貢献活動に参加することで、組織や地域社会への帰属意識の醸成や、従業員の自信と誇りの醸成、及びウェルビーイング向上につながることを期待しています。

2023年、ブリヂストンは9か国で実施した14件の活動について従業員へのインパクトアセスメントを試験的に実施しました。

対象となった従業員241名のうち、80%以上がブリヂストンへの帰属意識、地域社会への帰属意識、仕事に応用できるスキル、生活での心構えや行動、自身のウェルビーイングに前向きな変化があったと回答しました。

従業員へのインパクト

9か国14件の活動に参加した従業員241名への調査
(2023年12月4日時点)

82% ブリヂストンへの理解と愛着に前向きな変化があった

88% 地域社会への理解と愛着に前向きな変化があった

88% 心構え、行動、スキルに前向きな変化があった